

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス くん☆gん		2026 年 4 月 22 日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		複数の学校の児童が同室で過ごすため、例えば宿題の無い児童にプリントを用意する等工夫している。	概ね適しているが、クールダウンできるスペースを増やしたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1		全体での一斉活動が多い為、一人ひとりに職員を付けることは難しいが、現時点では問題になることは少ない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	難聴児や視覚支援が有効な児童にホワイトボードを使用している。	バリアフリーになってはいないが、現時点で必要な児童はいない。今後はスロープ等設置していく必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		古い施設であるが、清掃に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	2	児童からの要求に全て応えることは難しいが、状況によっては職員が一人対応し、別室が使えるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1		長期休暇のみに勤務する職員にまで都度、連絡しているわけではない。今後は長期休暇前には臨時職員を含めた会議を持ちたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			保護者会の回数を増やしていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		週に1回～2回、ミーティングを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		保護者アンケートはとっているが、外部の組織に依頼する必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8			オンライン研修を含め、研鑽に努めているが、参加する職員、また回数も増やしたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページで公表。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		定期的に、保護者・児童の両方から要望を聞き、支援の計画を立てるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		館内の学童部署との職員とも、会議を行い共通の対応ができるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2		長期休暇のみに勤務する職員にまで都度、連絡しているわけではない。今後は長期休暇前には臨時職員を含めた会議を持ちたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1		現時点では紙媒体が多いが、「HUG」を用いてのシステム移行中である。今後は専門職の配置も検討したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	2		地域支援・地域連携という面では弱い部分がある。また、各ご家庭の環境も理解した上で支援内容を決定していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2		立案の中心になる職員に偏りがある。職員全体のスキルアップの為に再検討する必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	週1回～2回、学童クラブとの交流で活動の幅を広げるよう工夫している。	来年度はより新しい遊びや活動を取り入れるようにする。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1		活動開始後に打ち合わせをすることもあるので、改めたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2		当日にできない日もある。少なくとも翌開所時間までには共有したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	2	「リトム」にて記録を行う。	リトムには書ききれない事もある。口頭での報告になることもあり、改善する必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1		モニタリングの定期的な実施ができていない時期があった。来年度は遅れることがないようにしたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	2		児童の利用回数によっては難しいこともある。確認が必要である。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		いくつかの遊び・活動の案を提案し、選択できるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1		学校であったトラブルの情報共有が遅れることもある。こちらからする送迎時のイレギュラーの連絡等は確実にしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		8		当事業支所は、基本的には小学6年生で終了する為該当しない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	7		利用していた保護者から児童発達センターで作成した申し込みを受けることはあるが、研修を受けるには至っていない。ぜひ実施した
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	館内の学童クラブとは密に交流を行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		職員が研修で得た情報の提供は行っているが、ご家族向けの研修会は行っていない。今後は保護者支援も充実させたい。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		お迎え時に些細な事でもお話できる機会を持ち、保護者の方に寄り添う対応を心がけている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	1		年に1回、日南町にある古民家で親子の里山遊びを企画している。保護者からのアンケートでは回数を増やして欲しいとの回答もあり、検討したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	2		コドモンとH.Pを活用。今年度は写真が多くなく、意識的に発信していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1		餅つきのお手伝い、お楽しみ会での銭太鼓の指導にて地域の方に来ていただく。もう少し長い時間、交流できるようにしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	2	昨年度、書式を変更し、記録を取りやすい工夫をした。	意識的に記録をとるよう努めてたが、一部の職員に偏っていた。今後は全ての職員が取り組む必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			身体拘束に関しては当初から反対の立場である。	